

病院理念

## Patient First 「患者さん第一」

ファースト・オピニオン (First Opinion) を提示でき  
セカンド・オピニオン (Second Opinion) を求められる病院に!

基本方針

- 脳神経外科・神経内科専門病院のスタッフとして社会的責任をはたし、24時間常に質の高い医療を提供します。
- 患者さんの安全と安心を確保し、常に医療事故の予防と対策につとめます。
- 患者さんの権利を尊重し、病状説明と情報 (カルテ) 開示を行います。
- 患者さんの個人情報の保護を確実にしています。
- 急性期から慢性期、在宅まで地域の関連機関と連携を強化します。
- 翠清会の職員である誇りを持ち、常にプロとしての実力を高める努力をします。

## インフォームド・コンセントとは

(informed consent ; 以下 IC と略します)

副院長・脳神経外科部長 須山嘉雄

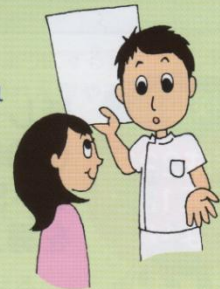
「正しい情報を得た (伝えられた) 上での合意」を意味し、日本語では「説明と同意」という言葉で訳されています。

特に、医療行為 (手術や検査など) を受ける際に、治療を受ける本人あるいは家族が治療の内容について口頭 (必要に応じて文書を併用) で説明を受け、理解した上で医療に合意することです。説明の内容としては、病気について、治療方法や内容、期待されている結果 (= 医療行為の利点) のみでなく、代替治療や副作用、合併症、成功率、費用、予後 (今後のこと) などを含んだ正確な情報が与えられることが望まれます。この同意はいつでも撤回できることが条件として重要です。例えば、患者さんが「すべてお任せいたします」といって十分に理解せず同意書に署名したり、医師が説得して同意を得るような態度は不十分な IC の例です。

医師側が注意することとして、「患者さんの心情、価値観、理解力に配慮した説明」が必要で、「患者さんの選択権」、「自由意志を最大限尊重する」ということが重要です。また、専門用語を乱用しないことも大切なことです。一方で患者さん側にもご注意くださいことがあります。

- 1 一人ではなくご家族と一緒に話を聞き、理解できるまで説明を求める。
- 2 口頭のみでなく、書面による説明を受ける。
- 3 治療方法について、利点や欠点、予後、合併症、他の治療法がないかどうかを聞くこと。
- 4 その病院での治療経験や治療実績などを尋ねること。
- 5 その治療が可能な他の施設、病院の有無を尋ねること。
- 6 セカンドオピニオン外来を利用すること。(セカンド・オピニオンとは直訳すれば第二の意見ということになります。)

診断や治療方針について主治医以外の医師の意見を聴くことをいいます。他の病院の医師の意見を聴くことは主治医に失礼になるのでは?と思われる方もおられますが、そのような心配は全くありません。当院でも火・木曜日の午後に予約制のセカンド・オピニオン外来を行っています。



当院の特徴として脳卒中患者さんが多く、一分一秒を争い治療を行う場合があり、その場合には治療をまず優先させ、その後詳細に病状を説明させていただくことがあります。

# 手術で治る認知症？ 特発性正常圧水頭症について

脳神経外科 根石 拓行



## ○はじめに

認知症にもいろいろありますが、手術で治る認知症があります。それが特発性正常圧水頭症です。認知症患者さんの約5～10%を占めますが、このような病気があることはよく知られていません。

今回は特発性正常圧水頭症についての症状や診断、治療法などについてご説明いたします。

## ○発生機序

私たちの頭の中には「脳脊髄液」と呼ばれる水が流れていて、脳は水に浮いている状態になっています。脳脊髄液は、脳の中心にある脳室で1日約450cc産生され、脳と脊髄の周りをひと巡りすると、同じ量が静脈に吸収されていきます。ところが、加齢に関わる何らかの原因により水の流れや吸収が妨げられ、余った水が脳室にたまり、特発性正常圧水頭症といわれる病気を引き起こします。

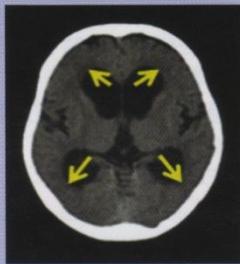
## ○症状

歩行障害、認知症、尿失禁の三つが主症状とされています。

- ①歩行障害：がに股で小刻み歩行、すり足歩行など
- ②認知症：記憶力低下、意欲低下、集中力低下など
- ③尿失禁：尿が出る感じが分からない、尿の我慢ができないなど

## ○診断

症状のいずれか一つ以上を認め、頭部CTやMRIで脳室の拡大が確認できれば、特発性正常圧水頭症を疑います。「タップテスト」という、腰の背骨と背骨の間に細い針を刺して脳脊髄液を約30cc排液して症状が改善するかどうか試す検査を行い、症状の改善がみられる場合は、手術が有効であると診断されます。



▲正常圧水頭症では矢印のように脳室が拡大します。

## ○治療

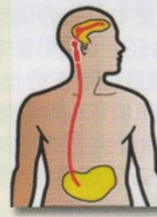
手術は、脳脊髄液の流れをよくする「シャント術」が行われます。余分な水を流す管を体内に埋め込み、脳室に過剰にたまっていた髄液を排除することによって、脳室のサイズを元に戻し、脳の機能を正常化させる治療法です。シャント手術には以下の3つがあり、当院では主に「V-Pシャント術」と「L-Pシャント術」を行っています。全身麻酔で行い、感染症・脳出血・シャント閉塞などの危険性がありますが、約1時間程度で終了する比較的安全な手術です。

## ○治療効果

シャント術による3大症状の改善率は、全体としては80～90%、歩行障害が80%、認知症が70%、尿失禁が50%と、高い効果がみられます。ただし症状が出現してから長期間経過してしまうと、治療効果を期待することは難しいとされています。

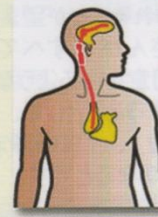
脳室-腹腔シャント

(V-P シャント)



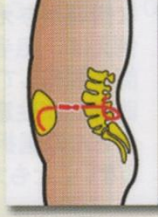
脳室-心房シャント

(V-A シャント)



腰椎-腹腔シャント

(L-P シャント)



(特発性正常圧水頭症診療ガイドラインより抜粋)

## ○おわりに

正常圧水頭症の治療には早期診断、早期治療が必要です。上記三徴候のいずれか一つでもあれば、御相談ください。

## 検査部

平成22年  
10月12日  
より

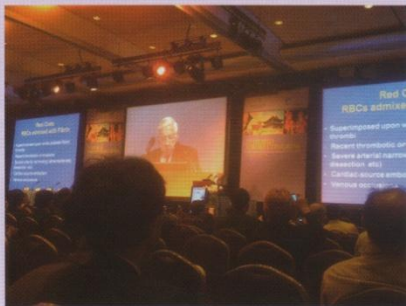
新しく16列マルチスライスCT  
(SOMATOM Emotion  
16-Slice configuration)  
を導入しました！

このCT撮影装置では、X線を受ける検出器が従来の6列から16列になり、一度に撮影できる断面数が増えました。それにより撮影時間は短く、より詳細な検査が可能になります。



# 7th World Stroke Congress に参加して

副院長・脳神経内科主任部長 野村栄一



World Stroke Congressは2年に1回、地球のどこかの都市で開催される国際学会です。世界中から脳卒中の専門家が集まり、脳卒中に関するさまざまな話題が発表・議論されます。インターネットの驚異的な普及で世界が身近になったとはいえ、人が集い、そして目と目をあわせてコミュニケーションする経験は大変貴重です。前は南アフリカのケープタウンで開催されたため、さすがに参加を見送りましたが、今回は韓国の首都であるソウルで開催ということで、ポスターを携えて仲博満部長とともに参加してきました。

ソウルは実は私が初めて訪れた外国です。そのときも学会に参加するためでしたが、上司に付き添ってもらい緊張の連続であった事を今も覚えています。あれから15年の間に様々な国で行われた学会に参加し、外国で味わう緊張や感動も薄くなってきましたが、ソウルの街の発展ぶりには目を見張りました。日本人への接し方も良い意味で変わったように感じました。私は、t-PAによる血栓溶解療法、仲博先生は微小脳出血（microbleeds）の演題を発表しました。Microbleedsの分野では世界をリードする一人であるソウル大学のLee先生の講演を実際に聴くことができたのは貴重な体験でした。そのスライドには仲先生が当院で行った研究成果も含まれていました。当院は研究機関ではないですが、臨床研究を通じて医療の進歩に少しでも貢献できるよう今後も努力していかなければならないと改めて感じました。

最近の円高のおかげで韓国では食事や買い物もお得感がいっぱい2泊3日でも十分堪能できました。2年後はブラジルのブラジリアで行われます。遠い!と嘆かず頑張って参加してみようかとも少し思っています。



## 栄養部通信

## 食物と薬の相互作用 (ワーファリン)

栄養部 塩野麻美

ワーファリンという薬を処方されると、薬剤師さんから「納豆・青汁・クロレラは食べないようにしましょう」と説明を受けると、

いったいそれらの何が問題なのでしょう？

それは食品に含まれる「ビタミンK」というものです。ワーファリンは血液が固まらないようにする薬ですが、ビタミンKはその働きを阻害してしまうのです。ビタミンKを多く含む食品には、納豆・ほうれん草やモロヘイヤなどの緑黄色野菜・クロレラなどがあります。

特に納豆は体内でビタミンKを作ることが知られているため、控えることが好ましい食品です。

緑黄色野菜は1日に350～500gと大量に摂取するとワーファリンの効果が減弱するという報告もあるようですが、毎日大量に摂らなければ問題は無いようです。

しかし、青汁にはビタミンKを多く含むモロヘイヤなどが入っています。飲む頻度を考えると、摂取を控えることが望ましいと言われています。

これ以外にも食べ物と薬の相互作用はあります。我々栄養士は、薬を安全に使用して頂くために、食物と薬の相互作用についての広い知識を持てるよう努力してまいります。



# 部署紹介

第5回

## ■リハビリ部

リハビリ科士長 岡本浩幸

当院におけるリハビリテーションは、医師を中心にチーム医療で急性期～回復期までの一貫したリハビリ治療を行っています。

入院当初からできるだけ早くリハビリを始め、高い治療効果を引き出すよう取り組んでおり、ご家族との面談や他職種とのカンファレンスを行い、ひとりひとりに適した目標を設定しリハビリを行っています。希望に応じて、屋外歩行練習や調理練習、職場復帰を想定した応用的なリハビリも行っています。また家屋調査（住宅改修の提案）やご家族への介護指導もさせて頂いています。

リハビリについて、何かご質問がございましたらリハビリスタッフへ気軽に声をかけて下さい。



### ●スタッフ紹介

<急性期病棟・亜急性期病棟・脳卒中ケアユニット担当>

理学療法士：12名 言語聴覚士：3名  
作業療法士：4名 専任医：3名

<回復期リハビリテーション病棟担当>

理学療法士：6名 言語聴覚士：2名  
作業療法士：6名 専任医：1名

## 平成22年 翠清会ニュース バックナンバー

### \*脳神経外科

- ・頸動脈ステント術(2月号)
- ・慢性硬膜下血腫とは??(4月号)
- ・バイパス術(6月号)
- ・くも膜下出血を予防するには!!(8月号)
- ・動脈瘤コイル塞栓術(10月号)

### \*脳神経内科

- ・脳梗塞といっても実は…⑦(2月号)
- ・一過性全健忘とは(4月号)
- ・脳梗塞の治療といっても実は①(6月号)
- ・微小出血とは?(8月号)
- ・白質病変・無症候性脳梗塞(10月号)

### \*その他

- ・耐性菌のこと(内科・10月号)



電車【5番線】広島駅 ← 広島港 …… 南区役所前電停下車

バス【7号線】横川 ← 向洋方面(紙屋町経由)… 昭和町下車

【10号線】己斐 ← 旭町方面(大手町経由)… 昭和町下車

【12号線】戸坂 ← 仁保方面(八丁堀経由)… 竹屋町下車

【23号線】横川 ← 大学病院(紙屋町・八丁堀経由)… 昭和町下車

【26号線】広島駅 ← 旭町(八丁堀経由)… 昭和町下車

【郊外線】バスセンター ← 熊野方面 …… 昭和町下車

【郊外線】バスセンター ← 中野東/一貫田 …… 昭和町下車

### タクシー

- 梶川病院の所在地は、「国道2号線平野橋西詰め北側」です。
- 介護老人保健施設ひばりの所在地は、「比治山橋西詰めを南へ入る」です。
- 居宅介護支援事業所つばさの所在地は、介護老人保健施設ひばり1階にあります。



医療法人  
翠清会

# 梶川病院

〒730-0046 広島市中区昭和町 8-20  
TEL 082-249-6411 FAX 082-244-7190  
ホームページアドレス <http://www.suisaikai.jp>

編集委員：野村・頼本・金川・曾利・山本・植田・國田・濱田